

あさのは

平成21年7月21日発行
発行：長岡赤十字病院

長岡市千秋2丁目297-1

電話 0258-28-3600

ホームページアドレス

<http://www.nagaoka.jrc.or.jp/>



長岡赤十字病院健康だより

「あさのは文様」という麻の葉をデザインしたものがあります。麻は丈夫で縁起がよく、健康を願って、昔から私たちの身のまわりの模様として使われてきました。これをお読みになる皆様の健康を願い、「あさのは」と名づけてあります。



形成外科の疾患

形成外科では、生まれつき（先天性）、けが（外傷性）、手術、加齢などが原因で、体の表面におきた形態の変化、色調の変化、組織欠損を対象としています。

1. 新鮮外傷、新鮮熱傷
2. 顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷
3. 唇裂・口蓋裂
4. 手、足の先天異常、外傷（合指症、多指症）
5. その他の先天異常（まぶた、耳、胸、おへそなど）
6. 母斑、血管腫、良性腫瘍
7. 悪性腫瘍、腫瘍切除後の再建
8. 瘢痕、瘢痕拘縮、肥厚性瘢痕、ケロイド
9. 褥瘡、難治性潰瘍
10. 美容外科
11. その他（顔面神経麻痺・後天性眼瞼下垂症・毛巣洞・陥入爪・巻き爪・リンパ浮腫・腋臭症）

他の診療科と取り扱う疾患が重なる部分もありますが、当科での治療方針を説明させていただいた上で他科受診をお勧めさせていただく場合もあります。また、他科と連携して治療（チーム医療）が必要となることもあります。

形成外科の治療法は多岐に渡るため、どのような方法を選択するかにより、期待する治療効果、手術時間、施術時の身体的・心理的ストレスの大きさ、治療終了までの通院期間等が、大きく異なります。患者さんから充分にお話を聞き、何を望まれているかを把握した上で、治療法についてご提案させていただきます。

形成外科だからといってすぐに手術を行うわけではありません。悩まれていること、心配されていることがありましたら、どうぞお気軽に受診して下さい。

（形成外科 佐藤）

第1回 当院のがん相談支援センターについて

平成19年4月に施行された「がん対策基本法」に基づいて策定された「がん対策推進基本計画」では、がん医療に関する相談支援および情報提供について達成すべき目標が期限付きで設定されています。それによると、原則として全国すべての2次医療圏において、3年以内に、相談支援センターを概ね1箇所程度整備するとともに、すべての相談支援センターにおいて、5年以内に、がん対策情報センターによる研修を終了した相談員を配置することを目標とすると定められています。がん診療連携拠点病院である当院でも、平成20年4月より前任のがん診療検討委員長である藤原正博先生のご尽力で「がん相談支援センター」が1階ロビーの薬局前に誕生し、業務を開始しています。がんに関するさまざまな相談や、情報提供、図書閲覧などの件数が着実に増加し、よく利用されるようになってきています。平日の午前9時から午後1時までいつでも無料で利用可能ですので、外来の待ち時間や、検査結果が出るまでの時間などに是非お気軽に利用してみても如何でしょうか？

一人で悩んでいた時にはわからなかったちょっとした発見や、暗く沈んでいた気持ちが少しでも明るく晴れるようなことがあるとしたら、こんなにうれしいことはありません。

(がん相談支援センター長 高橋)

歯科シリーズ 第9回

NST（栄養サポートチーム）における口腔ケア

栄養管理を行う上での歯科分野としては、栄養障害が口腔領域に問題があることによって生じていないか？栄養不良によって生じている口腔内の問題はないか？口腔内の衛生状態はどうか？などを評価し、対処します。

起こりうる問題として、食欲の減退、味覚や口腔機能の低下とそれによる摂食障害、誤嚥性肺炎などが挙げられます。さらにそれらが原因となり、低栄養や全身状態の回復遅延、入院期間の延長といったことが起こる可能性があります。

適切な対処をし、問題を解決することで栄養摂取状況は改善され、栄養状態の改善、生活の質の向上をもたらすことができると考えます。

口は“食べる”という行為に直接関係しており、呼吸器の入り口、コミュニケーションを取る器官でもあります。そのため口腔の管理は極めて重要です。義歯のない人には新しい義歯を作製したり、使えなくなった義歯は修理し使えるようになれば食事量は増えます。また、虫歯を治療すれば痛みも無くなり、よく咬めるようになります。

口から食べることは人生における楽しみであり、人間の本質的な欲求でもあります。一人でも多くの患者さんが安全に口からおいしいものを食べられるように支援していきたいと思えます。

(歯科衛生士 長谷川)